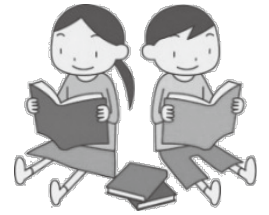


毎月9日は「うちどく」の日

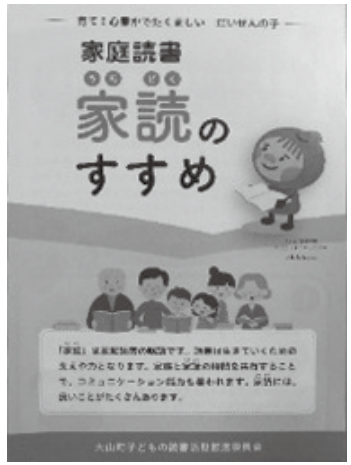


「うちどく」は「家読」のことです。学校で朝、10分間行っている読書を「朝読」と言っているのと同じで、「家読」は「家庭読書」を略した言葉です。

近年、スマートフォン等の急速な普及など子どもたちを取り巻く情報環境の大きな変化が、子どもたちの読書環境に大きな影響を与えていると言われています。子どもたちのゲームやインターネットなどのメディア機器に接する時間が多くなり、読書離れが進む傾向にあるのです。

〈家読の実践例〉

- 家族で一緒に本を読む時間を決めてしている。
- 同じ絵本を家族で読んで、感想を語り合っている。
- 家族で「家読」ノートを作って家族が読んだ本の名前を記録している。



となります。大人には脳の活性化に役立つとも言われています。

そこで、大山町子どもの読書活動推進委員会（以下「推進委員会」）では、子どもたちの読書離れを改善するための方策として、この度、毎月9日を「うちどく」の日と決めて、子どもから大人まで広く町民の皆さんに「家読」を呼びかけていくことにしました。

つきましては、実際に「家読」に取り組んでおられるご家庭の実践例を募集します。お寄せいただいた、実践例をこの紙面で随時紹介し、大山町に「家読」の輪を広げていきたいと考えています。たくさんのお応募をお待ちしています。

応募用紙は、町立図書館や公民館に置いてあります。

推進委員会は、子どもたちに読書習慣を身につけるために、リーフレット「家読のすすめ」を制作し、保育園児や小・中学校の児童生徒の家庭に配布しました。「本や絵本の読み聞かせをすること」、「いつでも本が身近にあつて、大人も一緒に読書をする事」などの環境をつくり、家族で図書館を利用する

みんなでわいわい迎春準備

大山公民館大山分館

大山公民館大山分館では恒例の「しめ縄作り講習会」を、12月20日に大山農村環境改善センターで行いました。

ちびっ子から大人までの参加があり、にぎやかな講習会となりました。講師は種原の椎木喜久男さんと、坊領の遠藤昇さんです。講師の手ほどきを受けながら、縄織りの手に新年への思いを込めて、様々な大きさのしめ縄を皆さん一生懸命作り上げました。



▶子どもと一緒に、しめ縄づくり

◆問い合わせ先
大山町立図書館
☎0858・49・3010

など、子どもたちに読書習慣を身につけるためのヒントを載せています。リーフレットは図書館にも置いてありますので、どうぞご利用ください。